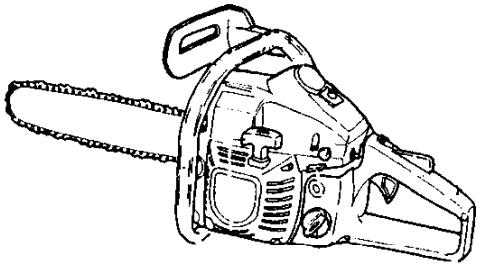
shindaiwa

エンジンチェンソー

K28
K35

取扱説明書



⚠ 警　告

ご使用前に、必ずこの取扱説明書をお読みください。
また、内容をよく理解したうえでご使用ください。
不適切な操作や保守は重大な事故につながるおそれがあります。
なお、本書はいつでも利用できるよう、大切に保管してください。

新ダイワ工業株式会社

目次

目次	頁
1．安全にご使用いただくために	1
1—1　ご使用前に	2
1—2　キックバック	4
1—3　給油	5
1—4　始動	5
1—5　作業	6
1—6　停止	7
1—7　点検・整備	7
1—8　移動・保管	8
2．各部名称	9
3．組立の手順	11
3—1　外観と付属部品のチェック	11
3—2　ガイドバーとソーチェンの取り付け	11
3—3　ソーチェンの点検と調整	12
4．エンジンの始動と停止	13
4—1　燃料の給油	13
4—2　チェンオイルの注入	14
4—3　エンジンの始動	15
4—4　始動困難なとき	16
4—5　停止	17
4—6　チェンオイル給油量の調節	17
5．切断作業	19
6．点検・整備	20
6—1　エアクリーナーの掃除	21
6—2　アイドリング回転数の調整	22
6—3　スパークプラグの点検	23
6—4　シリンダーフィンの掃除	23
6—5　燃料フィルターの掃除	23
6—6　スプロケットの点検	23
6—7　クラッチカバーの掃除	23
6—8　ソーチェンの目立て	24
6—9　ガイドバーの手入れ	26
6—10　クラッチドラムのグリース補給	26
7．長期保管	27
8．修理を依頼する前に	28
9．主な消耗品	29
10．仕様	30

はじめに

新ダイワエンジンチェンソーをご購入いただきありがとうございます。この取扱説明書の「安全にご使用いただくために」を十分理解し安全に使用してください。この取扱説明書で分からないことがありましたらお求めの販売店かお近くの弊社営業所にお問い合わせください。

チェンソーは高速で走行回転するソーチエン（刃）で木材を切断する機械です。事故、人的負傷、火災などを予防するために安全を常に心がけてください。不注意または不適切な使用は重大な事故の原因となります。

シグナル用語の説明

この取扱説明書は次のシグナル用語を使用しています。

⚠危　険　**取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負う危険が切迫して生じることが想定される場合。**

⚠警　告　**取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される場合。**

⚠注　意　**取扱いを誤った場合、使用者が傷害を負う危険が想定される場合および物的損害のみの発生が想定される場合。**

1．安全にご使用いただくために

警告ラベルの意味



この取扱説明書をよくお読みください。また、内容をよく理解したうえでご使用ください。



この機械を運転中は常に耳せん、保護めがね、保護帽を着用してください。



キックバック注意。ガイドバーの先端で切断しないでください。

1—1　ご使用前に

⚠ 危　険

■ 取扱説明書を読んでいない人や年少者（子供）にチェンソーを使用させないでください。

■ このチェンソーを他人に貸すときは、必ず取扱説明書を添付してください。

■ はじめてチェンソーを使用する方は、使用方法を販売店などからよく教わり、使用方法を十分習得してから使用してください。

■ 木材の切断以外に使用しないでください。石、金属やプラスチックなどの木質でない物を切断しないでください。

■ フロントガードなどの安全装置を絶対に取りはずさないでください。

■ 屋内などの換気の悪い場所では、決してチェンソーを運転しないでください。排気ガスにより、ガス中毒をおこします。

■ 排気ガスを直接吸わないでください。

⚠ 警　告

■ 疲労、病気、酒気帯びの場合、または医薬品服用中の場合は作業を行わないでください。また作業中に体調が悪くなった場合にはすぐエンジンを停止し、作業を中止してください。



■ 風、雨、大雪、濃霧などの悪天候の時、または落石やなだれのおそれのある場所では、使用しないでください。

■ 作業は早朝や夕方には行わず、視界のよい日中に行ってください。

■ 作業前にチエンソーの点検を行ってください。このとき、破損した部品は交換し、ネジの脱落やゆるみのないことを確認してください。

■ 作業前に作業場所をきれいにしてください。石、割れたガラス、釘、ワイヤは飛散して大ケガをするおそれがあります。

■ 作業前に燃料漏れがないか確認を行ってください。漏れがあった場合はただちに修理してください。

■ 裾のひらひらした服、アクセサリー類、ショートパンツ、サンダルなどを着用しないでください。頭髪は肩から下に垂れないように覆ってください。枝や機械の可動部に絡まるおそれがあります。

■ 靴は底に滑り止めのついた安全靴を使用してください。雨や雪の日は、滑りやすいので作業をさけてください。

■ 規格に合った保護帽を正しく着用してください。落下物によりケガをするおそれがあります。

■ 必ず保護めがねをつけてください。

■ 必ず耳せんをつけてください。聴覚障害をおこすおそれがあります。

■ チエンソーを取り扱うときには、厚手で滑り止めのついた防振性のある手袋を着用して手を保護してください。

■ チエンソーの操作時間は１日２時間以内にとどめ、10分以上の連続運転はしないでください。振動障害をおこすおそれがあります。



■ 正しく目立てされたソーチエンを使用してください。振動が低下します。

■ 寒冷のときには、長時間の作業はしないでください。

■ 作業中の身体の保温に注意してください。

■ 混合ガソリンを使用しますので、チエンソーのそばで喫煙やたき火をしないでください。火災発生のおそれがあります。

■ マフラーやマフラーから出る排気は非常に高温になりますので、燃えやすい物を近づけないでください。

■ 新ダイワ工業が指定したガイドバーおよびソーチエン以外は使用しないでください。

■ 決してチエンソーを勝手に改造しないでください。

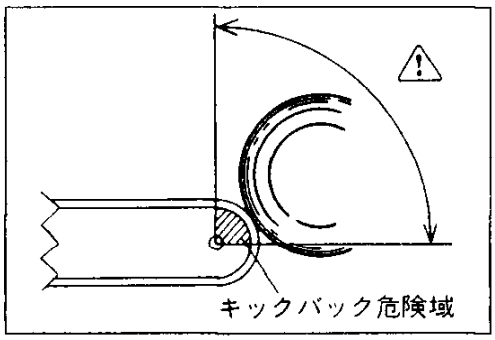
⚠ 注　意

■ ソーチエンを取り扱うときは必ず手袋をしてください。ソーチエンは鋭いカッターでできています。素手でさわるとケガをします。

■ ソーチエンの調整が適切に行われ、適当な張りぐあいを保っており、クラッチカバーがしっかり締め付けてあることを確認してください。

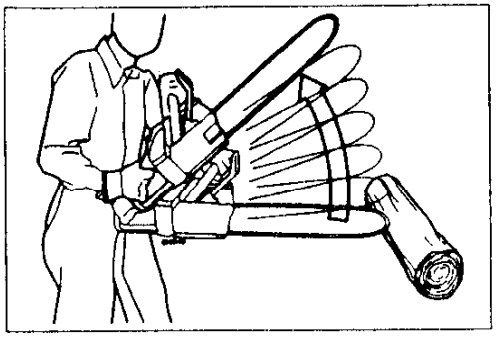
1—2　キックバック

⚠ 危　険



■ ガイドバーの先端、とくに上部１／４が固い物に当たったり、はさまれたときソーチエンの回転の反動でガイドバーの先端がはねあがったり、ガイドバーが後方に押し出され、たいへん危険です。この反動をキックバックと言います。この場合、運転者はチエンソーをコントロールできなくなり、重大な事故につながる場合があります。ガイドバーの先端で切断しない

ようにしてください。



■ チェンソーには目立てしたよく切れるソーチエンを使用してください。キックバックの発生が少なくなります。

■ フルスロットルで切断を行ってください。フルスロットルで切断力が最大となり、キックバックが起こりにくくなります。

1—3 給油

⚠ 警 告

■ ガソリンと2サイクルオイルの混合および給油は、屋外の風通しのよい火気のない場所で行ってください。給油はエンジンを停止し、エンジンが冷えた後にゆっくりと燃料キャップをはずして行ってください。急に燃料キャップをはずすと燃料が吹き出すことがあります。

■ こぼれた燃料は本体から拭き取ってください。

■ 燃料が身体にかかったときは、すぐに水洗いし、着衣は着替えをしてください。

■ 燃料の持ち運びや保管など、取り扱いには十分注意してください。

1—4 始動

⚠ 危 険

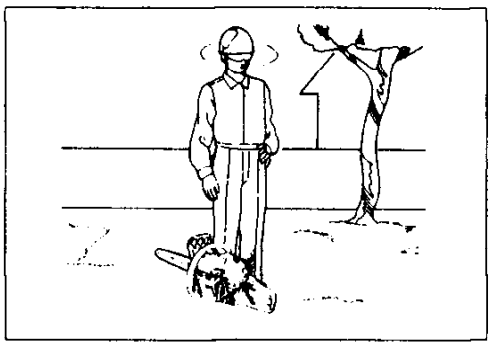
■ エンジンを始動するとき、ソーチエンが地面や他の物体に接していないことを確認してください。エンジンを始動するとすぐにソーチエンが回ります。

■ エンジン始動時および運転時は、絶対にソーチエンに身体を近づけないでください。

■ エンジンの落としがけは決して行わないでください。チェンソーのコントロールができず、たいへん危険です。

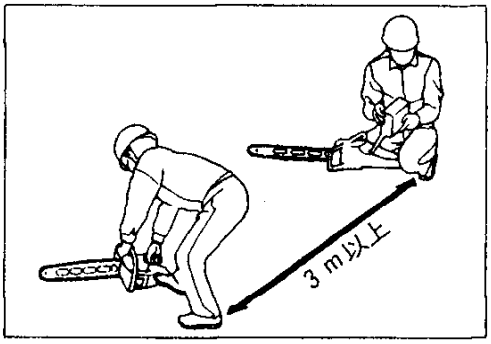
⚠ 警　告

■ エンジンの始動は取扱説明書に従い、安定の良い場所で行ってください。



■ 始動時は周囲の安全を確認し、一人（補助者なし）で行ってください。

■ エンジンがアイドリング時、ソーチエンが回転しないことを確認してください。アイドリング時、ソーチエンが回転すると危険です。回転する場合はアイドリング調整をして回転数を下げてください。（6—2　アイドリング回転数の調整）

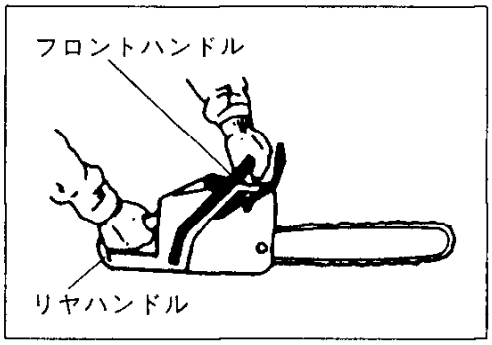


■ こぼれた燃料への引火防止のため、エンジンの始動は、給油場所から３ｍ以上離れた場所で行ってください。

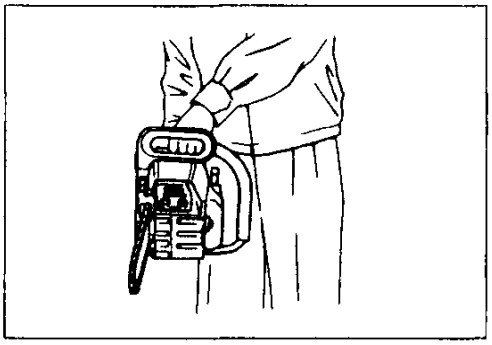
1—5　作業

⚠ 警　告

■ チエンソーを操作するときは左手でフロントハンドル、右手でリヤハンドルをしっかり握ってください。



■ 作業中はソーチエンと身体との接触をさけるために、チエンソーを体の右側に位置させてください。



■ チエンソーは胸より下の位置で使用してください。立木の枝払いのとき、チエンソーが肩より高くなるような姿勢での作業はたいへん危険です。

■ しっかりした足場の上で安定した姿勢で作業を行ってください。

■ 作業する場合、チェンソーを使用する周辺に他の人、子供、動物がいないことを確認してください。誰かが近づいてきた場合は、エンジンを停止し、ソーチェンを止めてください。

■ 作業は原則として一人で行い、複数で作業する場合は十分な間隔をとってください（伐木する場合は、対象木の高さの2.5倍以上離れてください）。

■ チェンソーを使用している人に近づくときはお互いに合図を行い、エンジンを停止し、停止を確認した後に前から近づいてください。

■ チェンソーを落としたり作業中に木にぶつけたり、何か異物に当てたときは、エンジンを停止し損傷の有無を調べてください。損傷があれば使用せず、すみやかに修理してください。

■ この取扱説明書の作業方法に従って切断、枝払い作業を行ってください。

■ 適当な長さに木を玉切りするときは地形を考慮し、山の上手を背にして下向きに作業してください。木が転がってきて、大ケガをするおそれがあります。

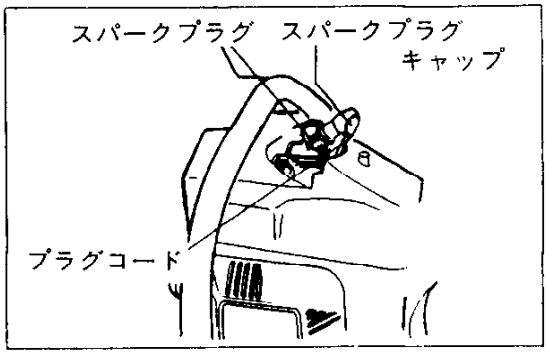
■ 燃料が漏れた場合は、ただちにエンジンを停止し、火気を近づけないでください。

■ 燃料キャップは休憩時に増し締めしてください。運転中に振動でゆるんでいる可能性があります。

⚠ 注　意

■ 運転中または運転直後に高温部（マフラー、シリンダーなど）に触れないでください。ヤケドをします。

■ 運転中は高電圧部（スパークプラグキャップ、プラグコードなど）に触れないでください。感電するおそれがあります。



1—6　停止

⚠ 警　告

■ エンジン停止後、あるいはスロットルレバーを戻した後も、ソーチエンはしばらく回転し危険です。スイッチを切ったときには、ソーチエンが停止するのを待って、停止を確認した後に本体を地面に置いてください。

1—7　点検・整備

⚠ 危　険

■ 点検・整備（ソーチエン交換、掃除など）を行うときは必ずエンジンを停止し、ソーチエンが停止していることを確認してから行ってください。

⚠ 警　告

■ ガソリンはたいへん引火しやすいので、点検・整備は風通しのよい火気のない所で行ってください。

■ 燃料キャップや燃料タンクから燃料漏れがないか定期的に確認してください。

■ 整備と修理を行うときは新ダイワ純正部品を使用してください。他社の部品を使用すると重大な事故になるおそれがあります。

■ 取扱説明書に記述がない整備や修理は行わないでください。そのような整備や修理はお求めの販売店かお近くの弊社営業所に依頼してください。

⚠ 注　意

■ 点検・整備はエンジンが冷えてから行ってください。ヤケドのおそれがあります。

1—8　移動・保管

⚠ 警　告

■ 移動時、あるいは保管時にはエンジンを停止してください。また、ソーチェンにチェンカバーをしてください。

■ ソーチェンでケガをしないために、移動時はフロントハンドルを持ち、ガイドバーを後ろ向きにしてください。

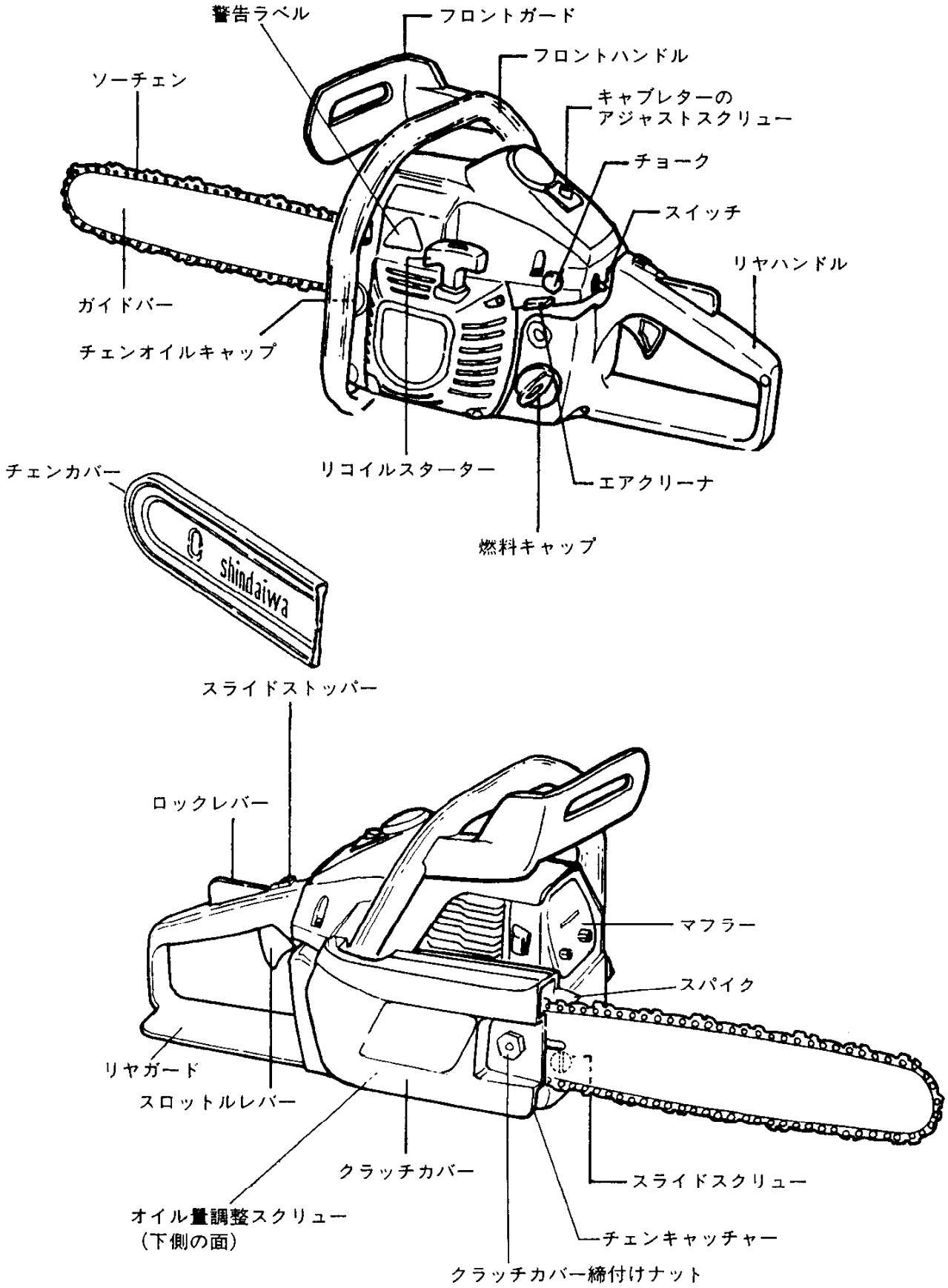
⚠ 注　意

■ 燃料漏れ、破損、ケガなどを防止するために、チェンソーを転倒しないように安定した場所に保管してください。

■ 年少者（子供）の手が届かない乾燥した冷暗所に保管してください。

■ 2～3日以上保管する場合は燃料タンクを空にしてください。

2．各部名称


警告ラベル
フロントガード
フロントハンドル
ソーチェン
キャブレターの
アジャストスクリュー
チョーク
スイッチ
リヤハンドル
ガイドバー
チェンオイルキャップ
リコイルスターター
エアクリーナ
燃料キャップ
チェンカバー
shindaiwa
スライドストッパー
ロックレバー
マフラー
スパイク
リヤガード
スロットルレバー
クラッチカバー
スライドスクリュー
オイル量調整スクリュー
（下側の面）
チェンキャッチャー
クラッチカバー締付けナット

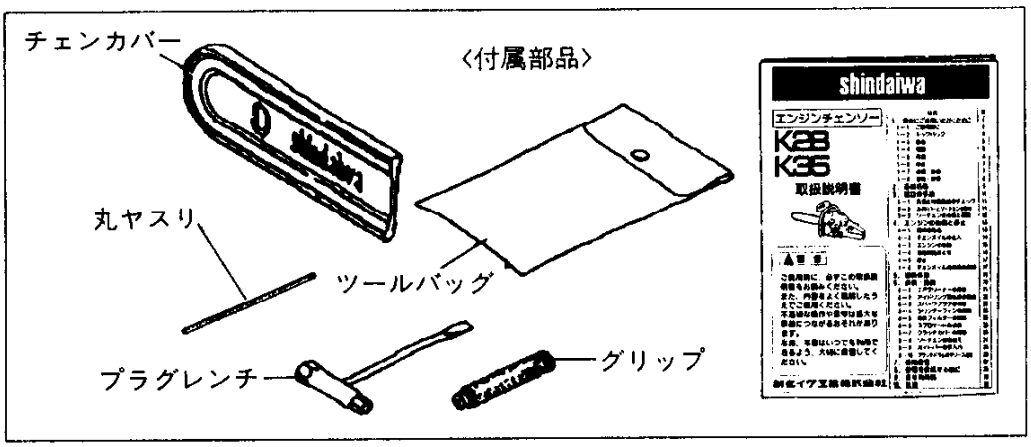
1．リコイルスターター	グリップを引いてエンジンを始動します。
2．キャブレターの アジャストスクリュー	アイドリング回転数を調整します。
3．チョーク	冷えているエンジンを始動する時に始動しやすくします。
4．ロックレバー	スロットルレバーを作動させる前に押し下げます。
5．リヤハンドル	チェンソーの後方にある右手用ハンドルです。
6．スロットルレバー	エンジンのスピードをコントロールします。
7．スイッチ	スイッチを下側（ＳＴＯＰ）にするとエンジンが停止します。
8．燃料キャップ	燃料タンクのふたです。
9．チェンオイルキャップ	チェンオイルタンクのふたです。
10．ソーチェン	カッターの付いたチェンです。木材を切断します。
11．警告ラベル	警告指示事項を示します。
12．フロントガード	フロントハンドルの前方にあり、手を保護します。
13．マフラー	排気音を減少させます。
14．スパイク（K35のみ）	木につめをたてチェンソーを固定します。
15．スライドスクリュー	ソーチェンの締付け調整をします。
16．ガイドバー	ソーチェンの支持と案内をします。
17．クラッチカバー締付けナット	クラッチカバー、ガイドバーを固定します。
18．オイル量調整スクリュー	チェンオイルの流量を調整します。
19．クラッチカバー	ソーチェン、クラッチ、スプロケットをカバーし、ガイドバーを固定します。
20．フロントハンドル	チェンソー前方にある左手用ハンドルです。
21．スライドストッパー	始動時にスロットルレバーを固定します。
22．チェンキャッチャー	ソーチェンがはずれたとき、足を保護します。
23．チェンカバー	チェンソーを移動あるいは保管するときにソーチェンの上から取り付けます。
24．リヤガード	リヤハンドルの下方にあり、ソーチェンがはずれたとき手を保護します。

3．組立の手順

3—1　外観と付属部品のチェック

この製品は工場出荷の際、厳重な検査を行っておりますが、念のためにこの製品の損傷やボルト、ナット類のゆるみなどがないか点検してください。また、付属部品の欠品がないか点検してください。

もし、点検の結果、異常や欠品があった場合はただちにお買い求めの販売店もしくは弊社営業所へご連絡ください。



3—2　ソーチェンの取りはずしと取り付け

新しいソーチェンはオイルに一晩浸してから使用してください。

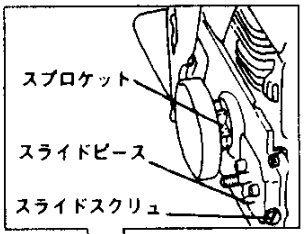
本機はガイドバーとソーチェンを組み込んでいますが、整備・点検などで分解するときは、次の手順でガイドバーとソーチェンの取りはずし、取り付けを行ってください。

〈取りはずし〉

① 付属のプラグレンチでクラッチカバー締付けナット（1箇所）をはずし、クラッチカバーを取りはずしてください。

② ソーチェンを取りはずしてください。

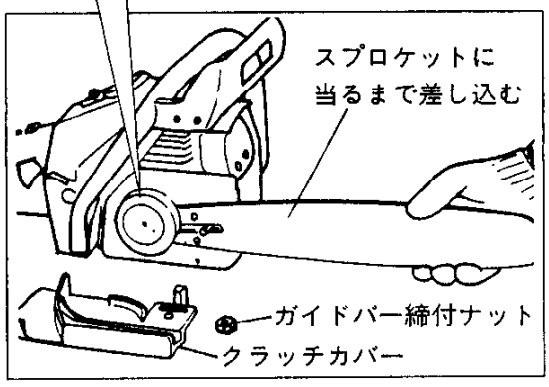
③ ガイドバーを取りはずしてください。



〈取り付け〉

⚠ 注　意

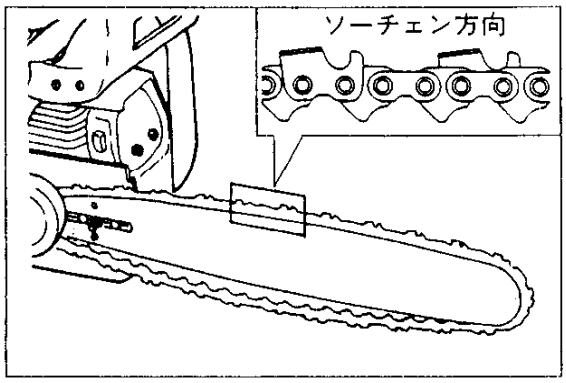
■ ソーチェンを装着する際は必ず手袋をしてください。



① ガイドバーを取り付け、クラッチドラ

ム側によせます。

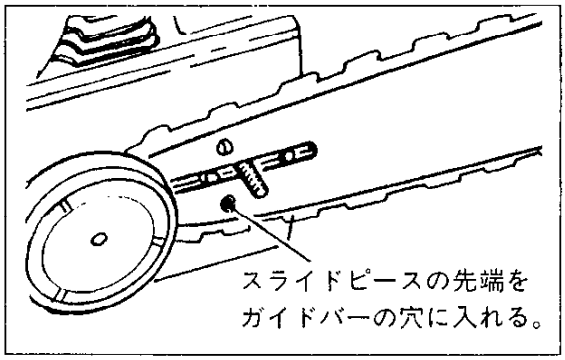
② ソーチエンをスプロケットにはめ、次にガイドバーの溝にはめます。



⚠ 注　意

■ ソーチエンは、右図の拡大図に示す向きで装着してください。

③ ガイドバーを先端方向に引き、スライドピースの先端をガイドバーの穴に入れてください。クラッチカバーを取り付け、締付けナット（１箇所）で軽く締め付けてください。その後、ソーチエンの調整作業にはいります。



3—3　ソーチエンの点検と調整

⚠ 警　告

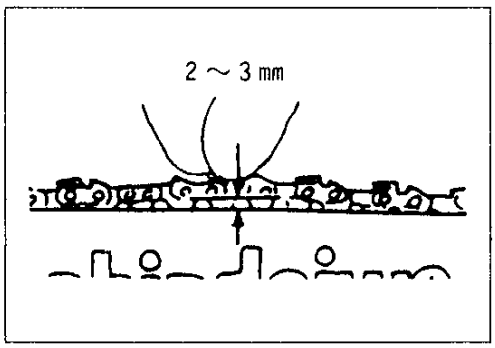
■ 作業途中でソーチエンを点検・調整するときは、エンジンを停止して行ってください。また、エンジンが十分に冷えてから実施してください。

■ ソーチエンの張りがゆるい状態で使用しますと、ソーチエンがはずれて思わぬ事故になります。使用前には必ず点検してください。

新しいソーチエンを使用する場合は、ソーチエンが伸びやすいため、張り調整をひんぱんに行ってください。

ソーチエンの調整は、安全性や寿命あるいは切断力に対して大きく影響しますので適正に調整してください。張りが強いときは、ソーチエン、ガイドバーが早くいたみます。

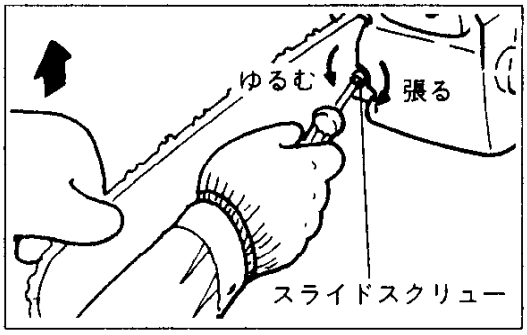
新しいソーチエンはチエンオイルに一晩浸してから使用してください。



１．点検

ガイドバーの中心近くのソーチエンを指で軽く持ち上げたとき、ガイドバーから２～３㎜浮いた状態になっていることを確認してください。(右図)

範囲外のときは、次項の手順に従って調整してください。



2．調整

① 作業途中で調整するときは、クラッチカバーの締付けナット(1箇所)を約１回転ゆるめてください。(反時計方向)

② ガイドバーの先端を持ち上げ、マイナスドライバーでスライドスクリューをまわしてください。
時計方向にまわす：ソーチエンが張ります
反時計方向にまわす：ソーチエンがゆるみます

③ 調整が終わったら、ガイドバーの先端を持ち上げたままクラッチカバーの締付けナット（１箇所）を付属のプラグレンチで、手で確実に締め付けてください。

④ ソーチエンをガイドバーの先端方向に引っぱり、スムーズに動くことを確認してください。

4．エンジンの始動と停止

4—1　燃料の給油

⚠ 警　告

■ 給油は屋外の風通しのよい火気のない場所で行ってください。
■ こぼれた燃料は必ず拭き取ってください。

1．燃料

燃料は必ず、無鉛ガソリン25に対して２サイクル専用オイル１の割合で混合した混合ガソリンを使用してください。

燃料の混合は容器にオイルを先に入れ、後からガソリンを加えてください。

例)	２サイクル専用オイル
ガソリン	25：1
(リットル)	(cc)
1	40
4	160
8	320

2．給油

⚠ 注　意

異物やゴミをタンク内に入れないために、燃料やオイルを給油する前にキャップのまわりをよく掃除してください。

燃料は常に新しいものを使用してください。２～３カ月以上保存したり、異物が混入した燃料を使用すると、故障の原因となります。

① 給油する前に燃料をよく混合してください。

② 燃料タンクの燃料キャップをゆっくりとはずし、燃料を給油してください。

③ 給油後は確実に燃料キャップを締め、燃料タンクから燃料漏れのないことを確認してください。

4－2　チェンオイルの注入

⚠ 注　意

■ チェンオイルが無い状態でチェンソーを運転しないでください。ソーチェンとガイドバーが焼き付き、破損します。

■ チェンオイルにチェンソー用チェンオイル以外は使用しないでください。故障の原因となります。

チェンオイルはソーチェンとガイドバーの摩擦を防ぎ、切断をスムーズにする大切な役目をします。燃料給油のときに専用チェンオイル、応急的にはＳＡＥ　10Ｗ－30相当オイルを補給してください。

〈注記〉

寒冷地ではオイルが固くなり補給できなくなることがあります。この場合、冬季用チェンオイルを使用するか、またはチェンオイル１に対して灯油を若干混ぜたものを使用してください。（ただし、チェンオイル１に対して灯油１以上の割合にはしないでください。火災などの原因となりたいへん危険です。）

またヤニの多い木を切断するときも同様に灯油を少量混ぜて使用するとヤニの付着が少なくなります。

4－3　エンジンの始動

⚠ 危　険

■ エンジンを始動するとき、ソーチエンが地面や他の物体に接触していないことを確認してください。また、そばに他の人がいないことを確認してください。始動後すぐにソーチエンが回り危険です。

■ エンジンの落としがけは決して行わないでください。チエンソーのコントロールができず、たいへん危険です。

⚠ 注　意

始動時にリコイルスターターのロープを最後まで引かないでください。ロープの寿命が短くなります。リコイルスターターを急に離さないでください。正しく巻き込まれないことがあります。

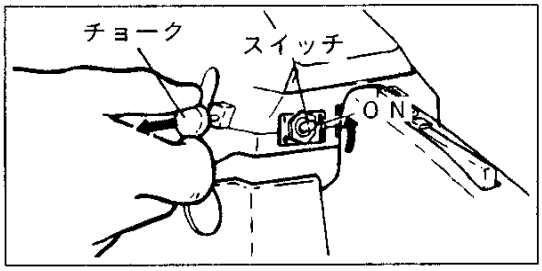
① スイッチを「ON」（上側）にしてください。

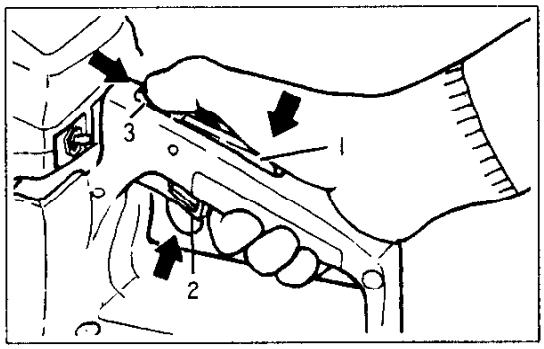
② チョーク

（a）エンジンが冷えているとき

チョークをいっぱいに引いてください。

ロックレバー1を押さえ、スロットルレバー2を引き、ストッパー3を手前に引いてスロットルレバーをゆっくりとはなしてください。（始動ロックの状態）





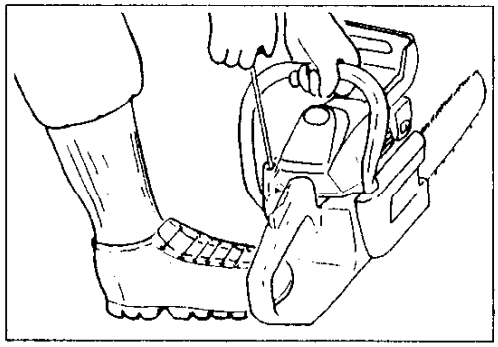
（b）エンジンが暖まっているとき

チョークを引かず、上記に準じてストッパー3を押し込んでください。

〈注記〉

チョークを引いて始動するときは、爆発音がしたら必ずチョークを押し込んでください。チョークを押し込まないと燃料の吸い込みすぎとなり、始動ができなくなります。

③ チエンソーを地面におき、右足でリヤハンドルをしっかりと固定します。作業者以外の人を作業場所から遠ざけてください。



④ 左手でフロントハンドルをつかみ、右手でリコイルスターターをゆっくり引きます。かみ合って重く感じた所から勢いよく引きます。

⑤ リコイルスターターを数回引き、爆発音がしたらチョークをもとの位置に押し込んでください。（エンジンが冷えているとき）

⑥ ふたたびリコイルスターターを引いてください。エンジンが始動したらスロットルレバーを少し引いて、始動ロックをはずしてエンジンをアイドリング状態にしてください。

⚠ 警　告

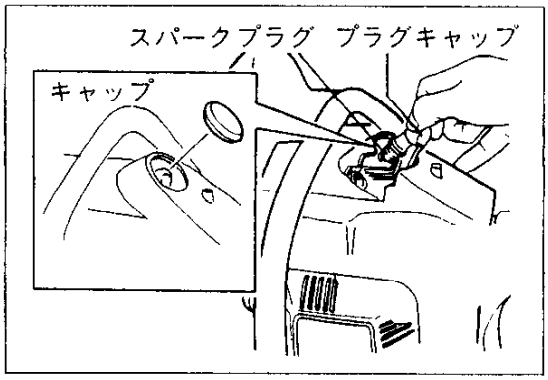
アイドリング時ソーチエンは回転しないように調節してあります。アイドリング時、ソーチエンが回転すると危険です。回転する場合はアイドリング調整をしてエンジン回転数を下げて、ソーチエンが回転しないようにしてください。（6－2項参照）

⑦ アイドリング運転を2～3分間実施してください。

⑧ スロットルレバーを徐々に引いてエンジンの回転を上げてゆくと、自動的にソーチエンが回転しはじめます。スロットルレバーをもどすと、ソーチエンの回転が停止し、エンジンはアイドリング状態になります。

4－4　始動困難なとき

エンジンが暖まっている状態で始動しないときは、エンジンが冷えている場合と同じ方法で始動してみてください。それでも始動しない場合、またはエンジンが冷えた状態で始動しない場合は次の操作を行ってください。



① スイッチを「STOP」にしてください。

② キャップをはずしてください。

⚠ 警　告

火気を近づけないでください。火災の原因となります。

③ スパークプラグを付属のプラグレンチではずし、スパークプラグの電極部が濡れているかどうか調べてください。

④ スパークプラグが濡れている場合はスパークプラグを乾燥させてください。スパークプラグを抜き取った状態でリコイルスターターを引き、数回空転させて燃料をシリンダ内から追い出してください。

⑤ スパークプラグを付属のプラグレンチで確実に取り付け、スパークプラグキャップをつなぎクリーナカバーをもと通りに取り付けます。エンジンが暖まっている場合の方法で始動してください。

⑥ スパークプラグが濡れていない場合は燃料タンクから燃料が届いていないので、燃料フィルターやキャブレターを点検する必要があります。6－5項の点検をするか、またはお求めの販売店にお問い合わせください。

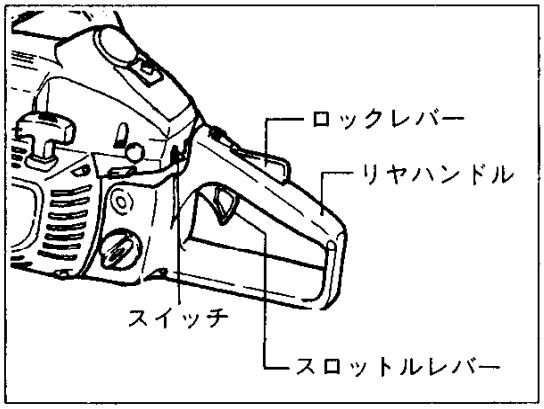
4－5　停止

エンジンを停止させるときは、スロットルレバーを戻し2～3分間アイドリング運転をしてからスイッチを「STOP」（下側）にしてください。

4－6　チェンオイル給油量調整

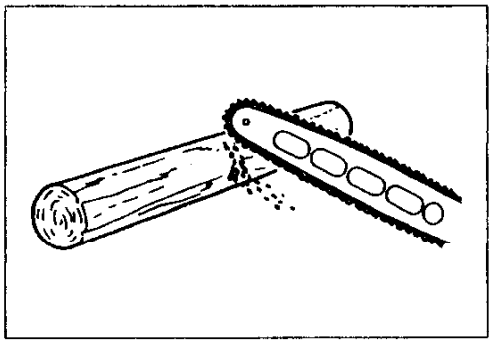
本機にはソーチェンを回転させると自動的にチェンオイルが給油される自動給油装置を装備しています。

① エンジンを始動し、ロックレバーを押さえ、スロットルレバーを徐々に引いてください。ソーチェンが回転します。



〈注記〉

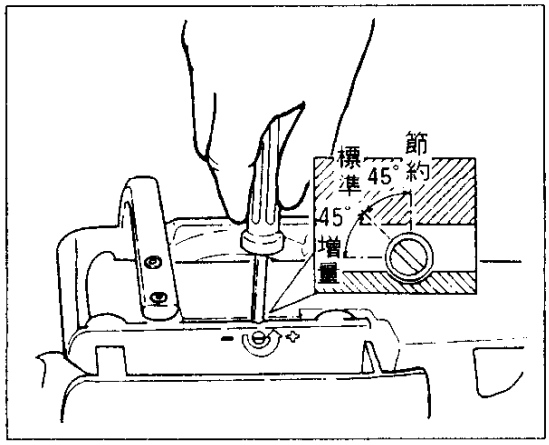
ハンドル上部のロックレバーを押さえないとスロットルレバーは引けません。使用中スロットルレバーを離せばアイドリングに戻ります。



② ガイドバーを乾いた木や地面に向けてチェンソーを運転し、木や地面に付い

たオイルの跡からチェンオイルが出ていることを確認してください。

③ 本体下部の調整スクリューにより給油量を調整できます。必要に応じて調整スクリューをマイナスドライバーで回し、給油量を調整してください。



節約：小さい径の木を切断するときなど、オイルを節約したいときに㊀側にセットしてください。

標準：出荷時はこの位置にセットされています。通常はこの位置で使用してください。

増量：堅い木や大きい径の木を切断するときに㊉側にセットしてください。

〈注記〉

- 調整スクリューはマイナスドライバーで回すとスムーズに回ります。調整スクリューを増量あるいは節約にセットして作業をしたときは、作業終了後、標準位置にもどしてください。
- 新しいソーチエン、または長期保管後のソーチエンは中途でならし運転をし、チエンオイルがソーチェンやガイドバーに十分行き渡ってから使用してください。

5．切断作業

5—1　効率のよい使い方

⚠ 警　告

チエンソーを運転中は常に耳せん、保護めがね、保護帽を着用してください。

スロットル全開で回転数は8000~10000rpmの範囲になるように、ソーチエンを軽く木に押し当てて切断するのが最も効率のよい使い方です。ソーチエンを木に強く押し当てて、エンジン回転数を下げて使用するのは使用者の疲労を増し、切断性能が著しく低下します。

5－2　伐木

⚠ 警　告

■ 伐倒する前に安全な避難場所を確保しておいてください。

■ 他の人が避難したことを確認した後でなければ伐倒しないでください。いつも同じ方向に倒れるものと考えては危険です。

⚠ 危　険

キックバックの発生を防止するため、ガイドバーの先端で切断しないようにしてください。

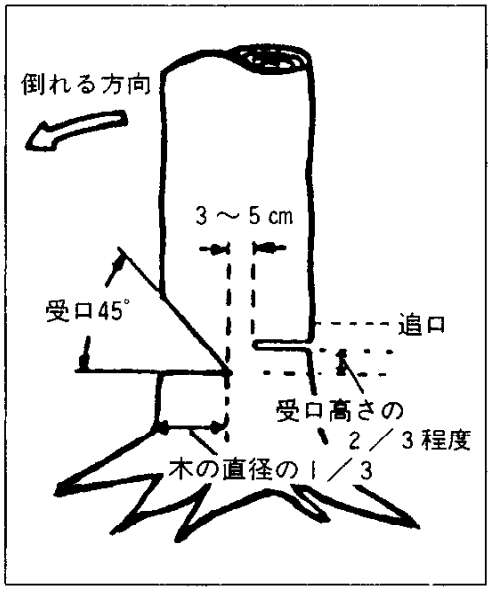
① 木の大きさ、形状、傾斜状態や、風向きなどを考慮してから倒す方向を決めておいてください。

② 安全に作業ができるよう、周囲をきれいにしておいてください。

③ 受け口の切り込みの大きさは、木の種類と太さにより差がありますが、直径の１／３位まで切り込みます。

④ 追口の切り込み
受け口の下の面より受口高さの２／３程度高い所から水平に切り込みます。芯部の残りが３～５㎝程度で受け口の方向に倒れます。
切断中にガイドバーが切目にはさまれたら、エンジンを停止し、切目にクサビを打ち込んではずしてください。

⑤ 木を倒す前にあらかじめ、エンジンを停止して周囲の人に合図をしてください。

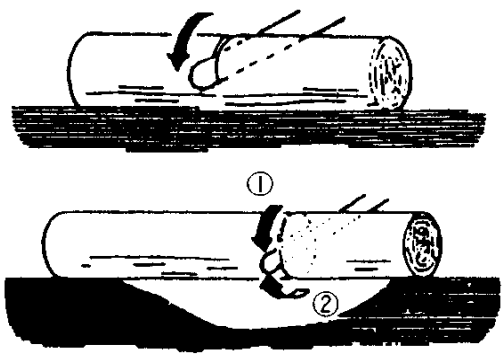


5－3　玉切りと枝払い

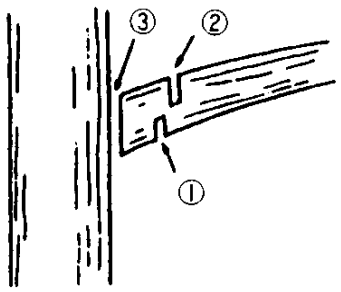
1．玉切り

① 図のように支えがなく横たわっている木材を切断するときは、木材を安定させてください。上側から切断してください。

② 図のように両端で支えられている



ような木材を切断するときは、上側から１／３切ったあと、下側から切ってください。こうすれば、ガイドバーが挟まれることがありません。



２．立木の枝払い

右図の①のところを下側から１／３切ったあと、②のところを上側から切り落とします。最後に残った③の部分を根元から切り落とすと楽に切ることができます。

６．点検・整備

⚠ 注　記

ガソリンはたいへん引火しやすいので、点検・整備は風通しのよい火気のない所で行ってください。

点検・整備表

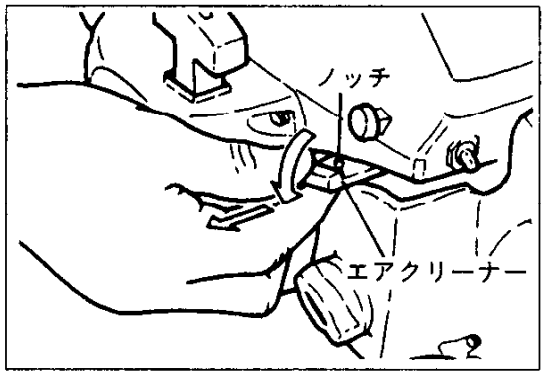
項　目		始動前	毎週	毎月	必要な場合
エアクリーナー	掃　除	○			
キャブレター	調　整				○
スパークプラグ	点検、掃除			○	
シリンダーフィン	掃　除			○	
燃料フィルター	掃　除			○	
スプロケット	点検、交換		○		
ソーチェン	点検、目立	○			
ガイドバー	点検、交換	○			
スクリュー、ナット	点検、増締	○			
燃料キャップ、燃料タンク	漏れ点検	○			
クラッチドラム	グリース補給			○	

６－１　エアクリーナーの掃除

エアクリーナーを取りはずし、ガソリンで良く洗い、乾燥させてください。エアでゴミを吹き飛ばす場合は、上（外側）から下（内側）に向けて行ってください。

〈エアクリーナーの取りはずし、取り付け〉

エアクリーナーの端をつまみ、下に押し曲げるようにしながら、ノッチをはずして引き出してください。取り付けは、ノッチがかかるまで差し込んでください。

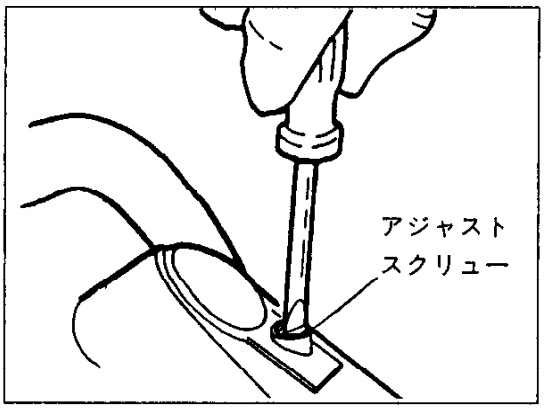


6－2　アイドリングの回転調整

⚠ 危　険

ソーチエンの周辺に人または干渉物がないことを確認して行ってください。アジャストスクリューの調整でソーチエンが回転します。

アイドリング時にはソーチエンが回らないように調整します。またエンジンが2800～3200rpmで安定して回転するようにアジャストスクリューを調整してください。時計方向に回すと回転が上がります。



⚠ 注　意

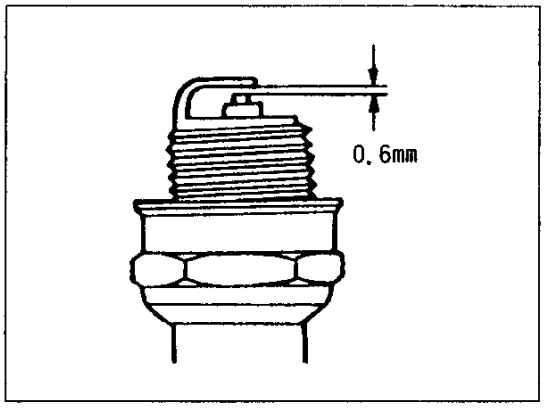
■ 無負荷全開運転するとエンジン回転が高くなりすぎ、焼き付く恐れがありますので、空吹かしはしないでください。

6－3　スパークプラグの点検

エンジンの始動性が悪くなったり、アイドリングが不安定になった場合はまずスパークプラグを点検してください。

① スパークプラグをはずしてください。4－4「始動困難な時」の項を参照してください。

② ワイヤブラシで汚れを落としてください。必要なら電極間すきまを調整してください。正しいすきまは0.6mmです。



〈注記〉

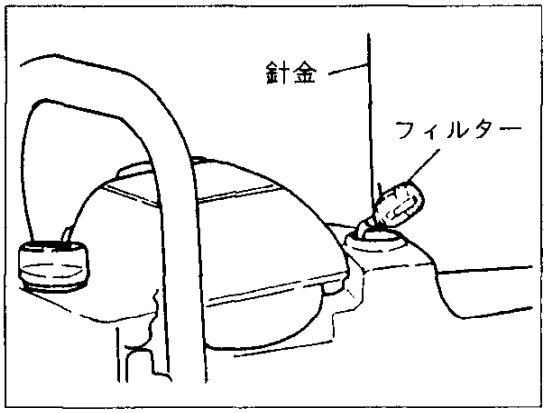
約100時間運転後、または電極の腐食がひどい場合はスパークプラグを交換してください。

スパークプラグは純正品（K28：CJ8Y、K35：CJ6Y）をご使用ください。

6－4　シリンダーフィンの掃除

- シリンダーフィンの間を掃除してください。シリンターフィンの間にゴミがつまっていると、オーバーヒートや火災の原因となります。
- つまりが多いときはお求めの販売店に依頼して掃除してください。

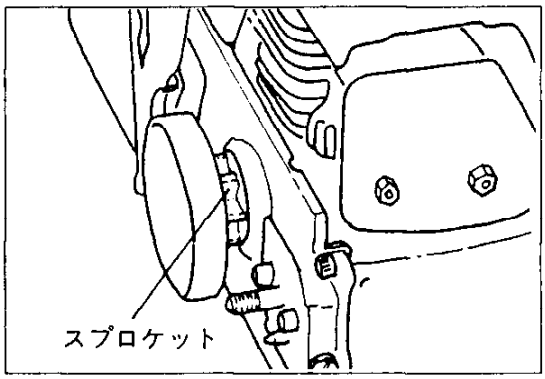
6－5　燃料フィルターの掃除



① 燃料注入口から針金などでフィルターを引き出して、先端のフィルターを取りはずしてガソリンでよく洗ってください。

② 洗浄後、ゴムパイプが折れないようにして燃料フィルターを燃料注入口から、燃料タンク内に戻してください。このとき、燃料フィルターが燃料タンクの底に着いていることを確認してください。

6－6　スプロケットの点検

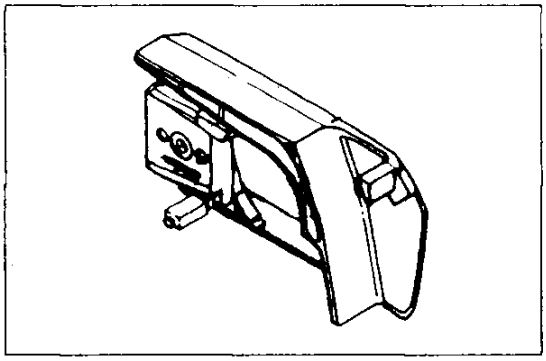


① クラッチカバーをはずしてください。

② クラッチドラム裏側のスプロケットを調べ、摩耗していたらお求めの販売店か弊社営業所にお問い合わせください。交換の目安は段差が約0.3㎜です。

6－7　クラッチカバーの掃除

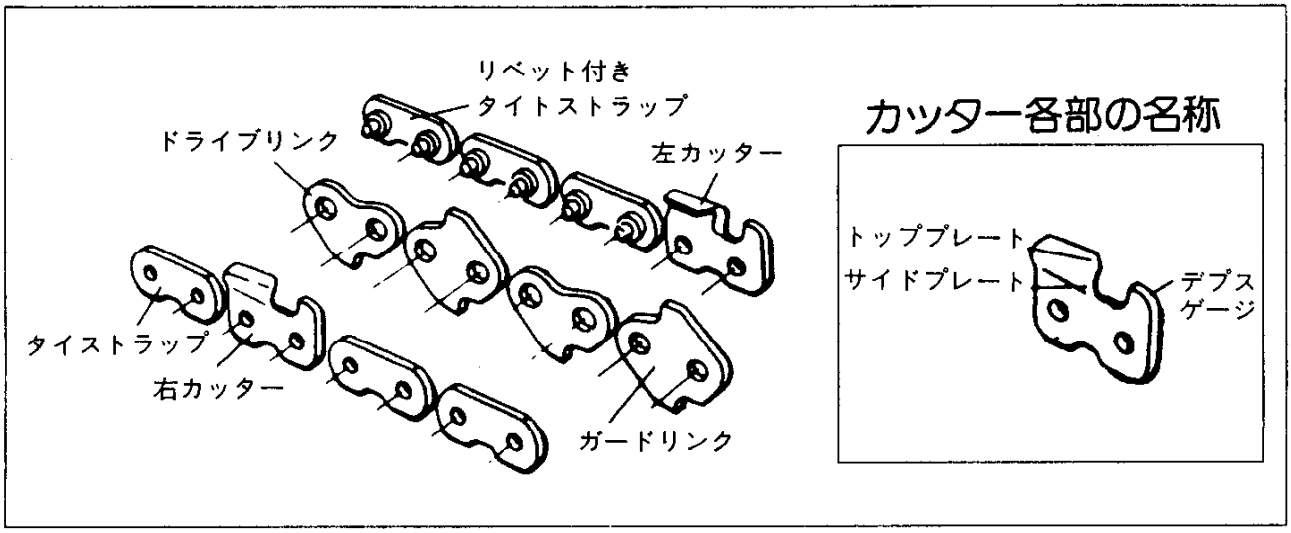
内側にたまった切りくずなどは取り除いてください。



6－8　ソーチェンの点検と目立て

1．ソーチェン各部の名称

- ドライブリンクはガイドバーの溝にたまった切りくずを排出する働きがあります。
- デプスゲージは切断のとき、木材に対するくい込み量を制限する働きがあります。



2．点検

カッターが摩耗していたら目立てをしてください。ソーチェンがヤニなどで汚れていたらガソリンで洗い、オイルに浸して、錆の発生を防止してください。ソーチェンの各部品に破損があった場合は、お求めの販売店か弊社営業所にご相談ください。

3．目立てのしかた

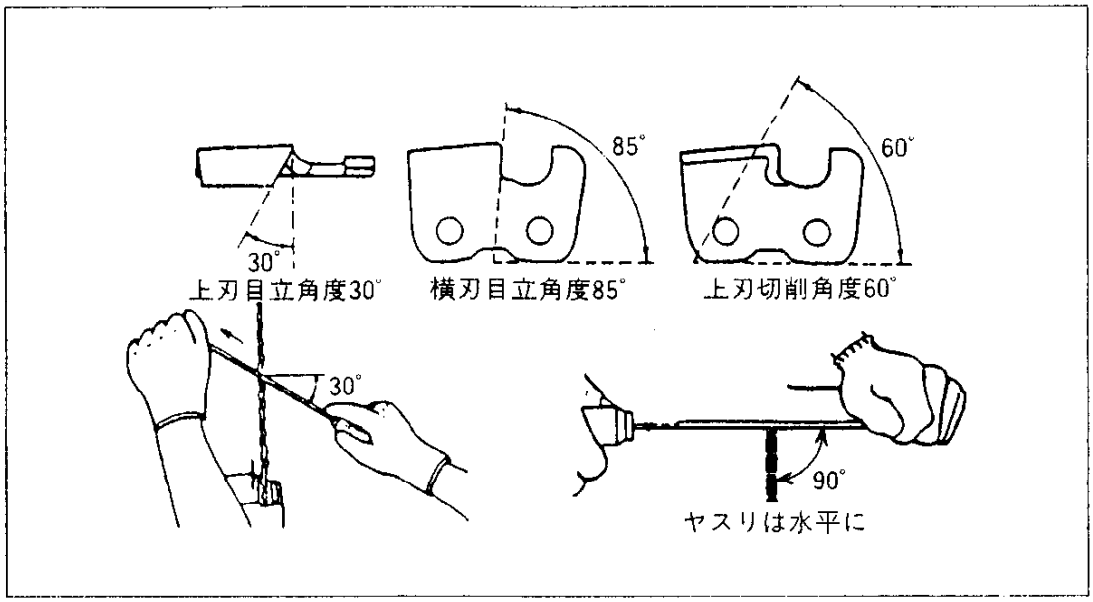
⚠ 注　意

ソーチェンを取り扱うときは、必ず手袋をしてください。

- 目立てのポイント

すべてのカッターを鋭利にし、左右のカッターの角度とデプスゲージをそろえます。

● 目立て角度



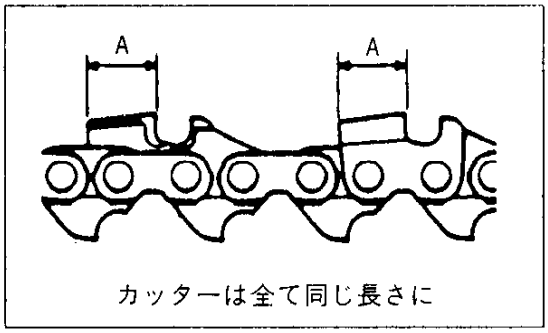
●目立ての手順

前項の目立て角度になるように次の手順で目立てを実施してください。

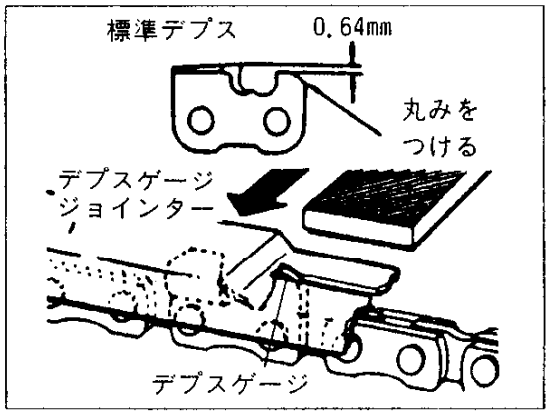
① 必ず、カッターの内側から外側に向かって、付属の丸ヤスリ（φ4㎜（5／32インチ））でヤスリがけしてください。

②カッターは、必ず自分から見て反対側のカッターを全部とぎ、次にチェンソーの向きを変え、反対側のカッターをといでください。

③カッターは、Aの寸法をすべて同じ長さにそろえてください。



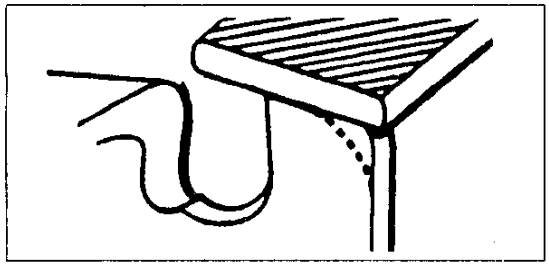
④トッププレート、およびサイドプレートに傷がある場合は傷がなくなるまで目立てを行ってください。



●デプスゲージの調整

目立てが完了したらデプスゲージの調整を行ってください。

①別売のデプスゲージジョインターをカッターの上に置き、もしデプスゲージが出ているときは平ヤスリで平ら（0.64㎜）になるまでとぎます。



②とぎ終わったら、前方の角を丸くしもと

のデプスゲージの形にします。

ソーチェンの目立てのよい例



ソーチェンの目立てのわるい例

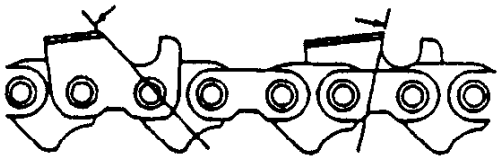
(イ)すべての刃の角度がそろっていない



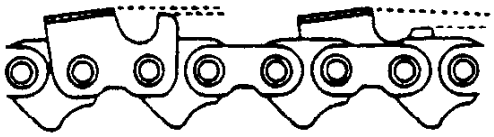
(ロ)すべての刃の長さがそろっていない



(ハ)すべての横刃がそろっていない



(ニ)すべてのデプスゲージがそろっていない



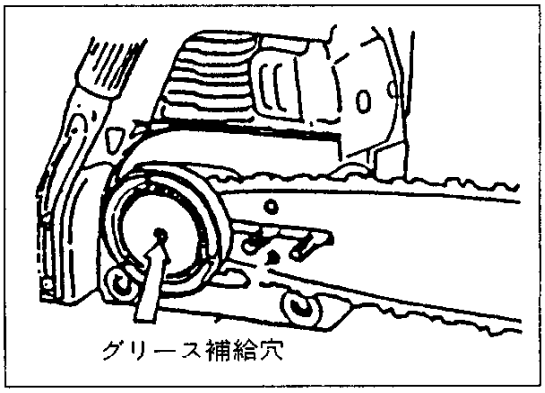
6－9　ガイドバーの手入れ

- ガイドバー溝、オイル穴部はいつもきれいにしておいてください。切りくずがつまっているときはデプスゲージジョインターの端で取り除いてください。
- ソーチェンの目立てや交換をするときは、ガイドバーの上下を裏返してください。ガイドバーの片側のみが摩耗するのを防ぎ、寿命がのびます。
- ガイドバーの溝が浅くなり、ドライブリンクの足がガイドバー溝の底に接触する前にガイドバーを交換してください。
- ガイドバーの全体に曲がり、割れ、欠けのないことを確認してください。

6－10　クラッチドラムのグリース補給

① クラッチカバーをはずしてください。

② クランクシャフト端面の穴からグリースを補給してください。グリースは新ダイワ純正グリースを使用してください。



- 点検の結果、修理や部品交換が必要な場合は、お求めの販売店にご相談ください。
  独自の修理は故障や重大な事故の原因となります。
- 交換する部品は新ダイワ純正部品を使用してください。
- 定期的にお求めの販売店で点検を受けてください。

7．長期保管

次の手順に従って保管してください。

① 各部を十分に掃除してください。

② 点検・整備の項を参考にして点検・整備を行ってください。

③ 燃料タンクの燃料を排出してください。

④ エンジンを始動し、エンジンが停止するまで低速で運転してください。

⑤ エンジン停止後、必ずスイッチを「ＳＴＯＰ」の位置にしてください。

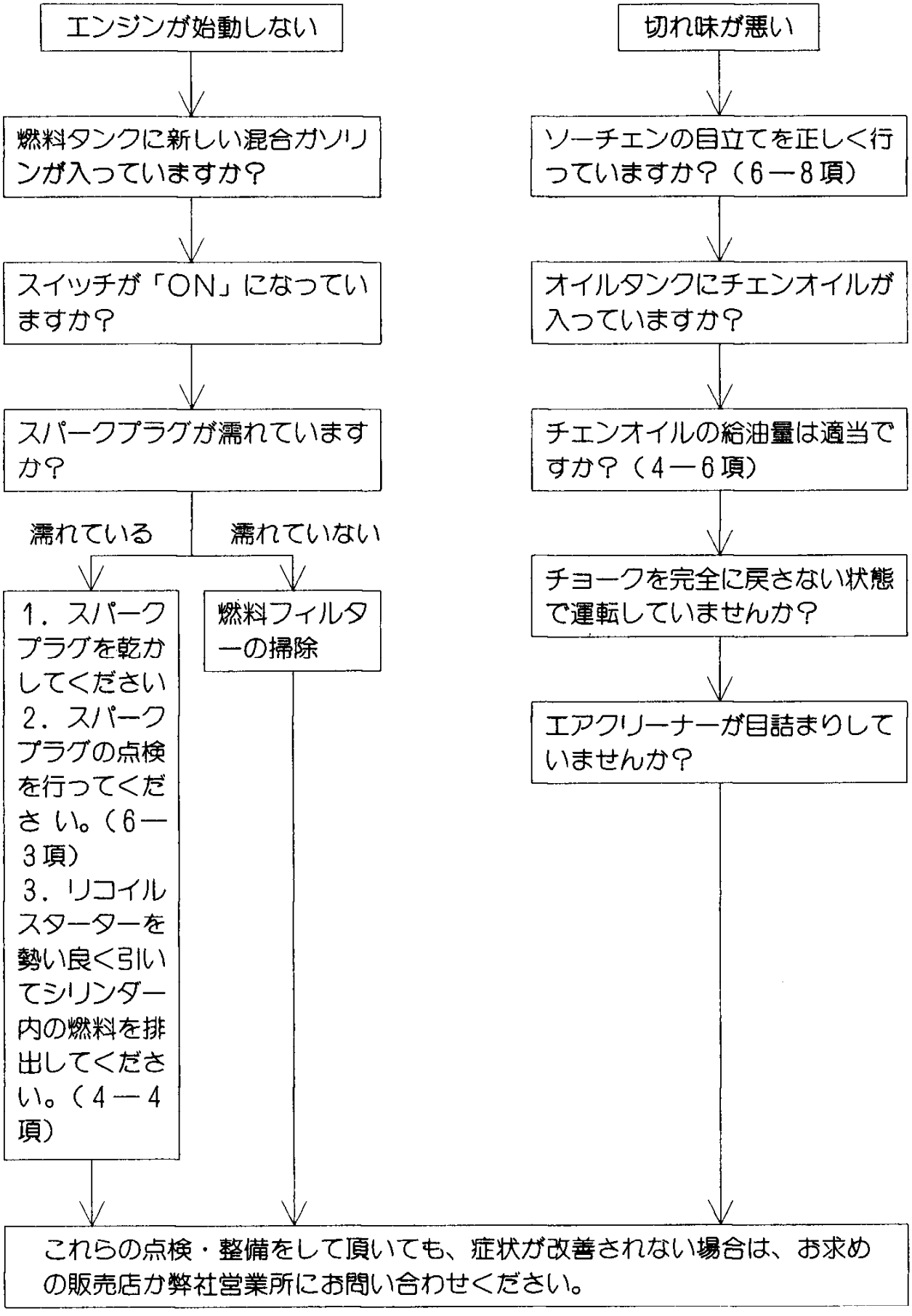
⑥ キャップ、スパークプラグキャップ、スパークプラグをはずし、スパークプラグ穴から少量の２サイクルオイルをシリンダ内に流し込み、オイルがゆきわたるように２～３回リコイルスターターを引いてください。

⑦ キャップ、スパークプラグキャップ、スパークプラグをもと通りに取り付けてください。

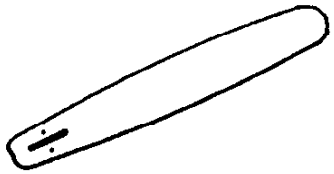
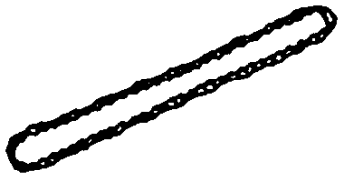
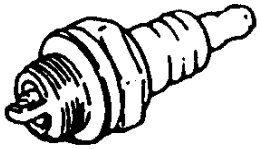
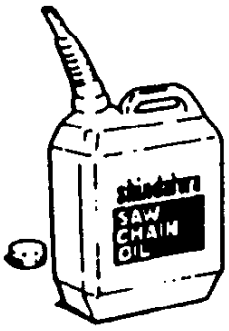
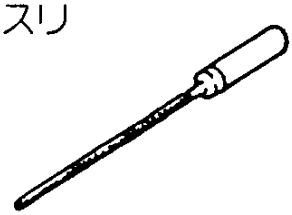
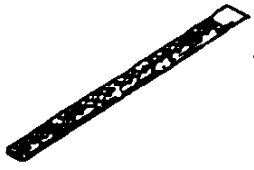
⑧ チエンカバーを取り付けてください。

⑨ 乾燥した火気のない冷暗所に保管してください。

8．修理を依頼する前に


エンジンが始動しない
燃料タンクに新しい混合ガソリンが入っていますか？
スイッチが「ON」になっていますか？
スパークプラグが濡れていますか？
濡れている
濡れていない
1．スパークプラグを乾かしてください
2．スパークプラグの点検を行ってください。（6－3項）
3．リコイルスターターを勢い良く引いてシリンダー内の燃料を排出してください。（4－4項）
燃料フィルターの掃除
切れ味が悪い
ソーチエンの目立てを正しく行っていますか？（6－8項）
オイルタンクにチエンオイルが入っていますか？
チエンオイルの給油量は適当ですか？（4－6項）
チョークを完全に戻さない状態で運転していませんか？
エアクリーナーが目詰まりしていませんか？
これらの点検・整備をして頂いても、症状が改善されない場合は、お求めの販売店か弊社営業所にお問い合わせください。

9．主な消耗品(お求めの販売店にご用命ください)

品　　名	規　　格	
ガイドバー 	K28	300mm（12インチ） 350mm（14インチ）
	K35	350mm（14インチ） 400mm（16インチ）
ソーチエン 	K28	91VS−45E(300mm) 91VS−53E(350mm)
	K35	91VS−53E(350mm) 91VS−60E(400mm)
スパークプラグ 	K28	チャンピオン CJ8Y
	K35	チャンピオン CJ6Y
ソーチエンオイル  4ℓ	ソーチエンオイル （または、 SAE10W−30相当品）	
目立てヤスリ  丸ヤスリ  平ヤスリ	φ4mm（5／32インチ） 幅9mm	

10. 仕様

モデル		K28	
エンジン形式		空冷２サイクルガソリンエンジン	
排気量　cc		28.5	
内径×行程　mm		36×28	
アイドリング回転数　rpm		3000	
点火方式		電子点火	
スパークプラグ		チャンピオン、ＣＪ８Ｙ	
キャブレター		ダイヤフラム式	
燃料タンク容量　ℓ		0.34	
燃料		混合ガソリン（ガソリン：２サイクル専用オイル＝25：１）	
始動方式		リコイルスターター	
停止方式		トグルスイッチ（アース式）	
動力伝達方式		自動遠心クラッチ	
防振構造		ハンドル一体防振（５点支持）	
消音装置		大型吸収型マフラー、吸気サイレンサ構造	
安全装置		フロントガード、リヤガード、チェンキャッチャ、スロットルロック	
ガイドバー長さ　mm		300	350
ソーチェン	型式	91ＶＳ−45Ｅ	91ＶＳ−53Ｅ
	ピッチ	3/8″	
	ゲージ	0.050″	
スプロケット歯数		6	
チェン給油方式		油量調整式自動給油	
チェンオイル		新ダイワ純正チェンオイルまたはＳＡＥ　10Ｗ−30相当オイル	
オイルタンク容量　ℓ		0.25	
本体寸法（長さ×幅×高さ）mm		350×240×260	
本体乾燥質量　kg		4.1	

＊仕様は予告なく変更することがあります。

モデル		K35	
エンジン形式		空冷２サイクルガソリンエンジン	
排気量　cc		35.2	
内径×行程　mm		40×28	
アイドリング回転数　rpm		3000	
点火方式		電子点火	
スパークプラグ		チャンピオン、ＣＪ６Ｙ	
キャブレター		ダイヤフラム式	
燃料タンク容量　ℓ		0.4	
燃料		混合ガソリン（ガソリン：２サイクル専用オイル＝25：１）	
始動方式		リコイルスターター	
停止方式		トグルスイッチ（アース式）	
動力伝達方式		自動遠心クラッチ	
防振構造		ハンドル一体防振（５点支持）	
消音装置		大型吸収型マフラー、吸気サイレンサ構造	
安全装置		フロントガード、リヤガード、チェンキャッチャ、スロットルロック	
ガイドバー長さ　mm		350	400
ソーチエン	型式	91ＶＳ−53Ｅ	91ＶＳ−60Ｅ
	ピッチ	3/8″	
	ゲージ	0.050″	
スプロケット歯数		6	
チエン給油方式		油量調整式自動給油	
チエンオイル		新ダイワ純正チエンオイルまたはＳＡＥ　10Ｗ−30相当オイル	
オイルタンク容量　ℓ		0.25	
本体寸法（長さ×幅×高さ）mm		350×240×260	
本体乾燥質量　kg		4.1	

＊仕様は予告なく変更することがあります。

【メ　モ】

新ダイワ工業株式会社

本 社　〒731-15 広島県山県郡千代田町新氏神35　☎0826-72-6011(代)

札幌営業所	〒065	札幌市東区北33条東17丁目4－17	☎011－783－7551
旭川事務所	〒070	旭川市5条16丁目左10号	☎0166－23－7520
仙台営業所	〒984	宮城県仙台市若林区大和町1丁目22－45	☎022－239－1688
郡山出張所	〒963-01	福島県郡山市安積町2丁目341－1	☎0249－45－8678
盛岡出張所	〒020-01	岩手県盛岡市月が丘1丁目26－52	☎019－641－3416
東京営業所	〒134	東京都江戸川区中葛西6丁目17－8	☎03－3687－5771
多摩出張所	〒205	東京都羽村市神明台2丁目10-5	☎0425－53－5309
横浜出張所	〒222	神奈川県横浜市港北区篠原西町34－33	☎045－431－7786
静岡営業所	〒422	静岡市西脇476	☎054－282－7012
大宮営業所	〒330	埼玉県大宮市吉野町1丁目19－4	☎048－666－2521
小山出張所	〒323	栃木県小山市大字稲葉郷350－1	☎0285－22－7808
前橋出張所	〒371	群馬県前橋市上小出町2丁目46-3	☎027－234－5956
長野出張所	〒381	長野市吉田5丁目24－16	☎026－244－3970
新潟出張所	〒950	新潟市竹尾4丁目11－5	☎025－275－5616
名古屋営業所	〒454	愛知県名古屋市中川区小本本町1－75	☎052－362－2281
津事務所	〒514	三重県津市大字半田池町590－5	☎059－227－2716
岐阜出張所	〒500	岐阜市宇佐南4丁目2－4	☎058－271－4015
金沢出張所	〒920	石川県金沢市諸江町中丁344	☎076－237－1230
大阪営業所	〒556	大阪市浪速区桜川4丁目11－20	☎ 06－561－8484
和歌山事務所	〒640	和歌山市六十谷1234－7	☎0734－62－7277
京都出張所	〒601	京都市南区吉祥院前河原町1	☎075－321－0141
姫路出張所	〒670	兵庫県姫路市西今宿5丁目5－4	☎0792－98－1250
松山出張所	〒791	愛媛県松山市久万ノ台223	☎089－922－8886
高松営業所	〒761-01	香川県高松市春日町片田1638－7	☎0878－43－1201
徳島事務所	〒770	徳島市昭和町6丁目76－105	☎0886－22－8183
高知事務所	〒780	高知市二葉町18－11	☎0888－83－7255
広島営業所	〒730	広島市中区江波南2丁目10－23	☎082－293－7600
米子事務所	〒683	鳥取県米子市旗ケ崎2丁目8－1-108	☎0859－34－7822
防府事務所	〒747	山口県防府市栄町2丁目2－29	☎0835－24－3424
岡山出張所	〒700	岡山市西長瀬261－104	☎086－241－3013
福岡営業所	〒812	福岡市博多区上牟田3丁目5－22	☎092－411－9801
諫早事務所	〒854	長崎県諫早市小船越町1021－3	☎0957－23－3341
小倉出張所	〒803	北九州市小倉北区高峰町10－8	☎093－561－3422
大分事務所	〒870-01	大分市高城南町7－13	☎0975－52－1745
熊本出張所	〒862	熊本市健軍本町7－17	☎096－365－0484
鹿児島営業所	〒890	鹿児島市宇宿2丁目23－18	☎099－257－6801
宮崎出張所	〒880	宮崎市霧島5丁目59	☎0985－23－2126

２２１６７—９３１１１（1－９７０８）Ⓖ